



つたえる
つなぐ
文書館

24

毛利家文庫76速記録の一部

ツナグ・ノコス ④

速記 ～口述を記録し、歴史に残す～

西洋文明を積極的に導入した明治期、西洋の速記を日本語に導入する試みも数多く行われました。とりわけ、明治14年(1881)にだされた、いわゆる「国会開設の勅諭」以後は、国会議事の記録の必要から、多くの人々が速記法を考案し、「〇〇式」とよばれるさまざまな速記法が工夫されました。

速記はもっぱら口述の場面での筆記用で、そのままでは一般の人には読めないことから、一般の記録用には、速記したものを、後に録音機が発明されてからの「テープ起こし」のように、もう一度文字に直す必要があります。そうして書き起こされたものが、筆記や新聞・書籍などの印刷物のかたちで、後世に残されることになりました。

《史談会・温知会》

代表的なものでは、明治維新时期の記録化をはかろうと明治22年(1889)に島津・毛利ら6家で発足した「史談会」の速記記録があります。史談会は毎月一回会合し、古老の実歴談を聞きました。その内

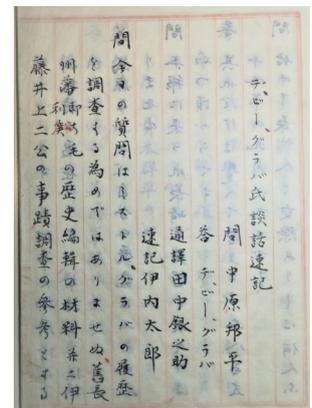
容は速記され、明治25年9月の第一輯から断続的に出版され、昭和に至っています。

史談会は明治30年にいったん開店休業状態となり、毛利家・島津家と水戸の徳川家・岡山の池田家が史談会を脱会しました。この脱会した4家に佐土原の島津家・熊本の細川家等を加えて新たに結成されたのが「温知会」で、明治44年からは速記者を入れて談話や発表を記録・出版し、昭和16年(1941)年まで続きました。

《彰明会・防長史談会・維新史料編纂会》

また同じころ、井上馨・山県有朋らをはじめとする薩摩・長州・土佐藩出身の元老・華族の有志たちは「彰明会」を立ち上げ、その立場から明治維新时期の「史談」を記録し始めていました。「防長史談会」の発足も、ほぼ同時期の明治42年です。

彰明会は帝国議会の協賛を経て政府直轄の国家事業となり、明治44年に文



「デ・ビー・グラバ史談速記」
(毛利家文庫76速記類29)

長崎にある「グラバー園」で有名なトーマス・ブレイク・グラバー(1838～1911)は、開港間もない長崎にジャーデン・マゼソン商会の代理店としてグラバー商会を設立し、日本茶や石油、武器等の貿易を行う一方、いわゆる「長州ファイブ」の渡航の手引き等をするなど、薩摩・長州や坂本龍馬等と深いつながりを持っていました。

写真は、毛利家編輯所の中原邦平がグラバーに対して行なった聞き取りの速記録です。

部省管轄で「維新史料編纂会」として新たに発足することになりました。

維新史料編纂会では、維新史研究の諸団体から寄贈された講演速記録を編集し、刊行しました。これらのことは、「史談」が「史料」と並んで、歴史編纂のための資料として重視されていたことを示しています。

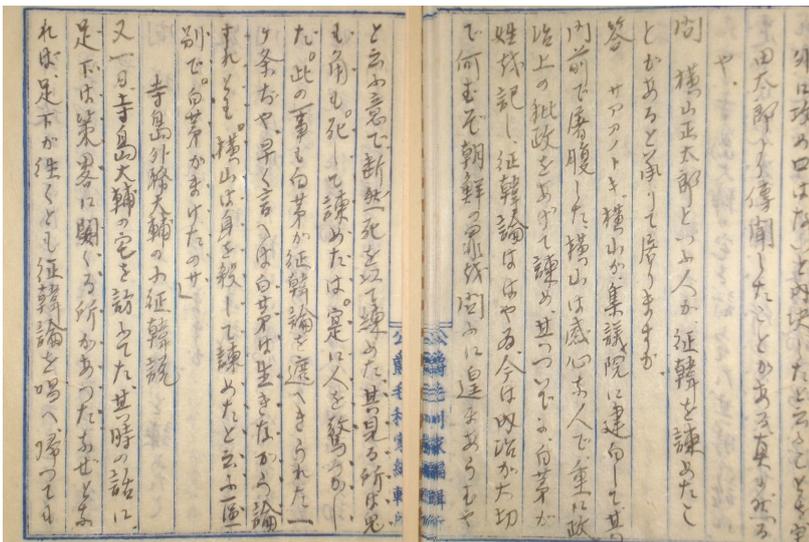
太平洋戦争後、維新史料編纂事業は東京帝国大学文学部史料編纂所へ継承されることとなり、担当職員とともに、稿本や史料類が東京大学文学部史料編纂所へ移管されました。

《毛利家文庫の速記資料》

当館の毛利家文庫には、この温知会や維新史料編纂会の速記録を含む、「76 速記類」と分類された資料群のほか、「75 維新記事雑録」等にも、口述速記をもとにした資料が散見します。「速記類」のなかには、毛利

家の藩史編修に従事した兼重慎一の談話速記録も、まとまった形で残っています。毛利家は、家史編纂の過程でも多くの人々の史談を聞き、速記録として残しました。速記録の多くは、幕末維新时期を生きた人々の体験に基づく肉声の記録であり、その内容はもちろんですが、当時使われていた話し言葉や、話し方などその人物の人となりやうかがわせる記録としても、たいへん興味深いものです。今後は、そういう面からも重要な資料となるでしょう。

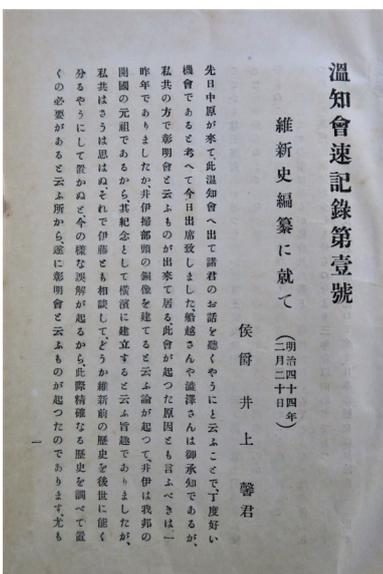
しかし、口述による「史談」と文字による「史料」の間には、往々にして記憶違いや筆写の間違いなどからくる齟齬がみられました。当初は「史談」と「史料」は同等の重みをもって扱われたようにみえますが、時を経過して当事者の記憶も薄れてきたこともあったので、しだいに「史談」よりも「史料」が重視されるようになり、それをもとに各種の歴史の編纂が行われるようになりました。



【史談会速記録】

「征韓論之嘯声」
(毛利家文庫75維新記事雑録204)

征韓論を建白した外務省の久留米藩士佐田白茅(はくぼう)が、征韓論への反対を政府に建言して割腹した横山安武(正太郎)について語った部分です。史談会で語ったものを、のちに毛利家が「侯爵毛利家編輯所」の罫紙に筆写しています。



【温知会速記録】

「温知会公演速記録(1)維新史料編纂会速記録」(毛利家文庫76速記類56(15の1))

温知会から寄贈された講演速記録を、維新史料編纂会が編集し刊行したもの。写真は第1号で、井上馨が維新史編纂について語ったもの。

【彰明会談話速記】

「彰明会ニ於ケル廢藩置県ニ関スル元老談話」
(毛利家文庫76速記類69)

維新史料編纂会の前身となった彰明会において、明治43年の会合で元老たちが廢藩置県について語ったもの。「維新史料編纂事務局」の用紙が使われており、その発足後に筆写されたものと思われる。

